

AI時代において重要となる教育とは 知識教育から、価値創造力を育む教育への転換 ～ 事業創造 & 多くの起業家を観察する中から見える風景 ～

2026年7月15日

PKSHA Technology

代表取締役 上野山勝也

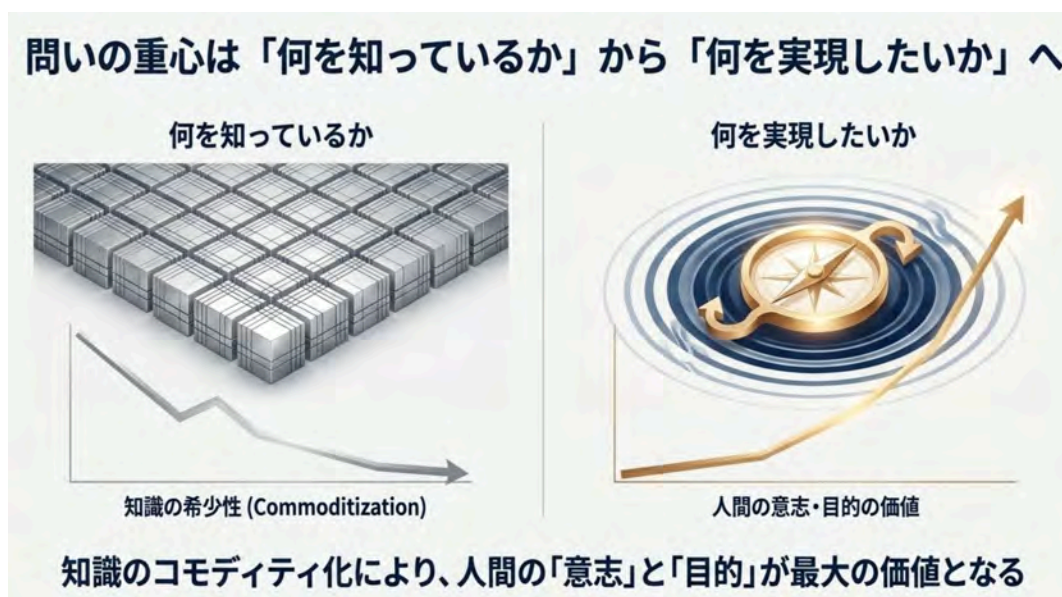
1. はじめに

生成AIをはじめとする人工知能技術の急速な進展は、産業構造のみならず、人間に求められる能力そのものを大きく変えつつある。

これまで教育は、知識や専門技能を体系的に習得し、それを社会で活用することを主な役割としてきた。しかしAIは、知識の検索・理解・生成・応用を極めて低コストかつ高速に実現しつつあり、「知識を保有していること」自体の価値は相対的に低下している。

一方で、人間が何を実現したいのか、どのような問いを立てるのか、どのような価値を創造するのかという能力の重要性は、これまで以上に高まっている。

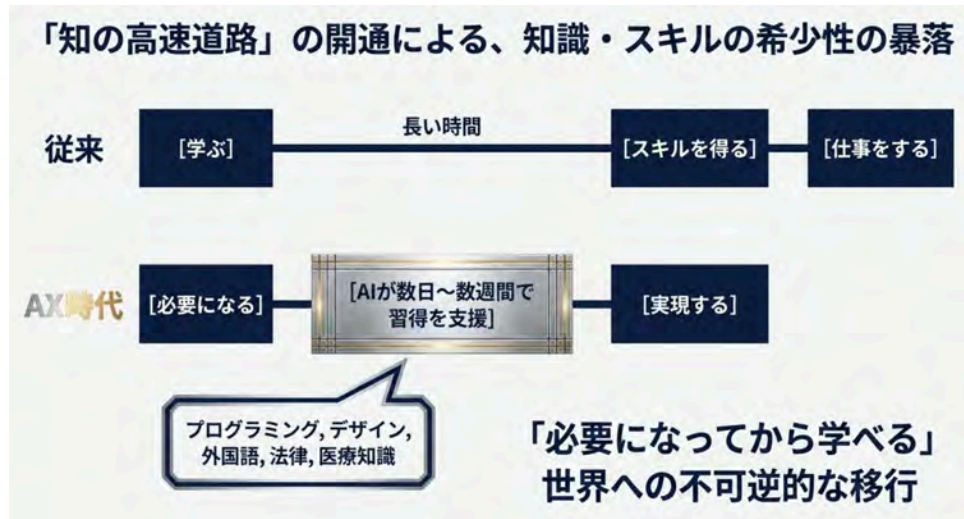
AX(AI Transformation)時代においては、教育制度そのものを、AI時代の人間の価値構造に合わせて再設計する必要がある。



→ 教育の重心は「モチベーションの総量を如何に増やすか」というシンプルな問いに

2. 前提1: 環境変化: そもそも何が変わったのか？

- ①: AIが「知の高速道路」を実現した (但しやる気ある人だけに)
- ②: 不確実性が高まり、環境変化に適応する能力が重要に(改善ではなく変革)
- ③: 複数分野が融合し、分析する力よりも越境し組み合わせるor矛盾をすり合わせる力が重要に(多様な分野・文化を擦り合わせる力)



3. 前提2: 起業の成否を分ける能力からの示唆

起業においては情動系のモチベーションと脳のメタスキル以外は誤差



起業に必要なほとんどのスキルは、事前学習不可能。必要になってから学ぶしかない。
他の専門スキルは、起業後に習得するものが95%。環境に働き掛け何かを試して、フィードバックから何かを学び取り仮説を立てる能力が問われる。

特に重要なのが

- 「情動系のモチベーション/動機」を消さずに増幅し続ける能力
- 新たな様々な領域を高速に理解するメタスキル・学習能力 の二つ

これらは起業家ならではの能力ではなく、多くの分野で活躍する人に共通する能力にも見える

今後この能力の重要性がさらに高まっていく可能性が高く、
下記3点の環境変化を考えると、多くの人にとっても重要となる可能性(詳細な理由は後述)

(再掲)環境変化の3点

- ①: AIが「知の高速道路」を実現した(但しやる気ある人だけに)
- ②: 不確実性が高まり、環境変化に適応する能力が重要に(改善ではなく変革)
- ③: 複数分野が融合し、分析する力よりも越境し組み合わせるor矛盾をすり合わせる力が重要に(多様な分野・文化を擦り合わせる力)

4. AI時代には育成すべき能力の階層が変わる(より下層に)



教育が育成する能力は、概ね階層構造に整理できる。

- 上: 専門知識・専門技能
- 中: 課題設定能力、学び続ける力、コミュニケーションなどのメタ能力
- 下: 主体性、好奇心、挑戦意欲、価値観など、学びを駆動する内発的動機

AIが最も代替しやすいのは、第一層である専門知識・専門技能である。

一方、AIが代替しにくいのは、問いを立てる力、目的を設定する力、挑戦を続ける力といった、人間の主体性に関わる能力である。つまり、教育の重心は、上層の専門スキルから、脳(認知→行動)するためのメタスキルと、情動系のエネルギーをいかに増幅し扱うかという感情教育に徐々にシフトしていく必要が高まっている。

したがって、高等教育は専門知識の教育に加え、これらの基盤能力を体系的に育成する方向へ転換する必要がある。

5.「右：認知能力」から「左：実行能力」へ

従来の教育は、知識量や論理的思考力など、認知能力を中心に評価してきた。

しかしAIと協働する社会では、

- 問いを設定する、実際に行動する、失敗から学ぶ、環境変化へ適応する。という循環そのものが価値を生み出す。
- 人間のモデル：非利き腕と情動/モチベーションが重要に
 - 上：知識・専門スキル
 - 中：メタスキル・地頭
 - 右手：認知能力
 - 左手：行動能力
 - 下：情動系/モチベーション

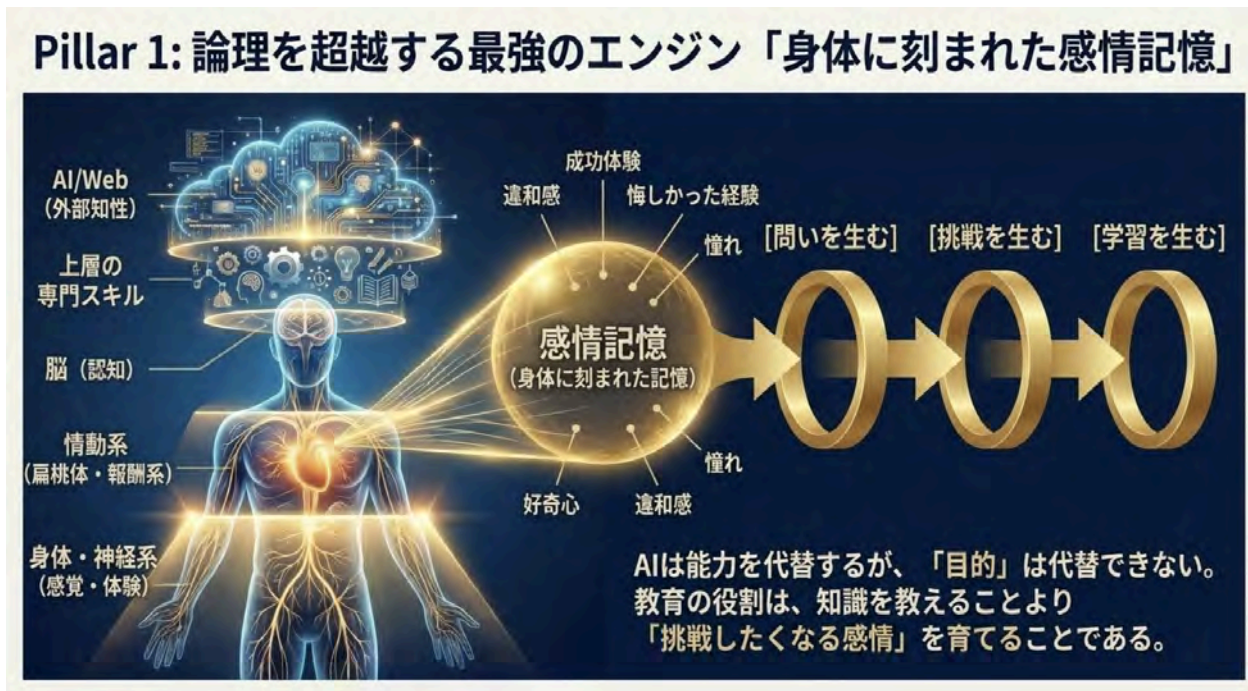
教育もまた、「知っていること」を評価するだけではなく、「社会で実践できること」を育成・評価する仕組みへ進化する必要がある。



6. AI時代、「知性」の定義を拡張する必要 ～問う力/エネルギーはどこから来るか～

AI時代における知性は、認知能力だけでは十分に説明できない。

今後求められる知性とは、「認知能力」×「実行能力」×「環境適応能力」を統合した能力。



それらを駆動する情動・モチベーションはどこから来るのか？ 冷静に観察すると。身体に刻まれた感情記憶のみである。故に、今後の教育では、モチベーションの源泉となる感情記憶・体験のデザインに教育の重心は世界的にもシフトするはず。加えて身体性、協働、現場での判断、試行錯誤を通じた学習なども、人間固有の知性として教育の対象に位置付ける必要がある。

7. 教育の目的を再確認する

教育には従来、大きく三つの役割があった。

- 2:①: 国民一人ひとりに最低限の能力を保障する「社会的セーフティネット」
- 6:②: 社会や産業を支える人材を育成する「社会基盤の形成」
- 2:③: 新たな知や産業を生み出す「イノベーションの創出」

これまでは前二者が教育制度の中心を占めてきた。

しかし人口減少とAIの進展が同時に進む我が国においては、教育が果たすべき役割は、「社会を維持する教育」から「社会を発展させる教育」へと重心を移していく必要がある。



8. 教育の本質は「豊かなワールドモデル」を育むこと

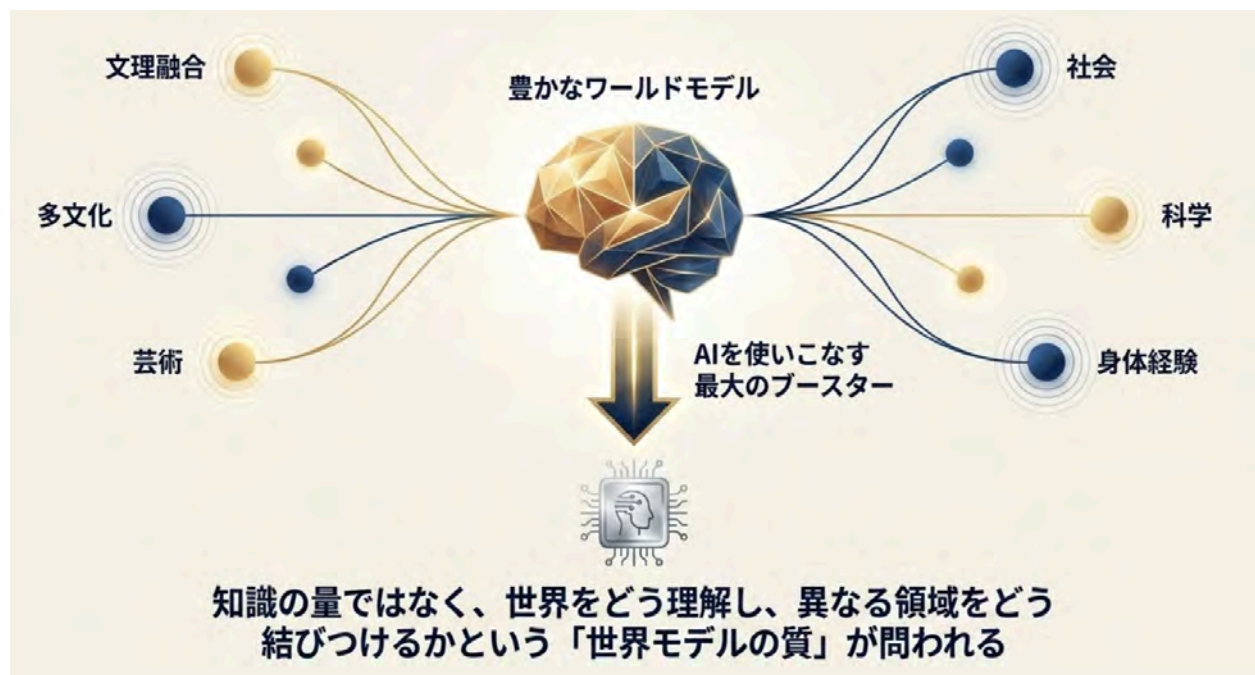
AI時代には、知識量そのものよりも、世界をどのように理解し、多様な知識を結び付け、新たな価値を構想できるかが重要になる。

そのためには、

- 文理融合
- リベラルアーツ
- 多文化理解
- 芸術・科学・社会を横断する学び
- 実社会における経験

などを通じて、多面的な世界認識(ワールドモデル)を育成することが重要である。

これはAIを効果的に活用し、新たな価値を創造するための基盤となる。



おわりに

教育パラダイムの完全な移行：知識教育から人間教育へ

	従来（知識教育）	AX時代（人間教育）
育てるべきもの	知識	問い
スキルの性質	スキル	学び続ける力
評価の指標	IQ	実行力
専門性の形	専門性	ワールドモデル
動機の源泉	成績	挑戦したくなる感情

AX時代において教育改革とは、AIを教育へ導入することではない。

AIによって人間に求められる価値が変化したことを踏まえ、教育の目的そのものを再定義することである。

今後の教育は、

- 知識の習得から、価値創造へ
- 正解を学ぶ教育から、問いを生み出す教育へ
- 認知能力中心から、実行能力・環境適応能力を含む総合的な能力育成へ
- 専門性の育成から、多様な経験を通じた豊かなワールドモデルの形成へ

と重心を移していく必要がある。

具体的な教育方法は下記などの情動系の神経系を活性化させる活動を中心にすべき。

- 矛盾・異文化との衝突（自己のワールドモデルが揺らぎ、進化・汎化する）
- 海外経験（異世界に暮らすことでワールドモデルが拡張する）
- フィードバックループを高速に回すこと（小さな成功体験による情動の増幅）

AIは人間の能力を代替する技術であると同時に、人間が本来持つ主体性、創造性、挑戦する力を教育の中心へ戻す契機でもある。AX時代の教育改革は、こうした人間の価値を最大限に引き出す教育への転換として位置付けるべきである。

以上